

「長岡聾啞学校に入って—そして長岡空襲—」

講 師／水野 ミサ氏（東京・長岡聾啞学校卒業生）

佐藤 私が司会を務めさせていただきますので、宜しくお願い致します。進行上、至らぬ点がございましたら、どうか御寛容のほどお願い致します。講師の水野さんを紹介させていただきます。東京からお越ししております。終戦以前に長岡聾啞学校を卒業された方で、長岡空襲に遭った経験をお持ちでございます。皆さん、お年はいくつと思われませんか？ 水野さんは来年で80歳を迎えられます。大正15年生まれです。大正生まれの方はおられますか？（笑）貴重なお話を頂けると思いますので、ゆっくりとご清聴（観）下さい。

水野 こんにちは。ご紹介頂きました水野と申します。宜しくお願い致します。誠に申し訳ありませんが上着を脱がせて頂きます。

佐藤 吊り下げ名札も外されてかまいません。

水野 このままだと邪魔になるし、やりにくいですね。（笑）

沢山のご参加をありがとうございます。実家は長岡でしたが、六日町（現在の南魚沼市）で生まれました。六日町とは、越後湯沢の近くにあります。しばらくしたら長岡聾啞学校に入学したので、卒業まで寄宿舎で暮らしていました。私が小4で13歳の時、最高17歳の同級生もいて、年上の同級生も多くいました。朝早く起きて中等部の先輩と一緒に工場へ行って飛行機に関係あるタンクをつくっていました。

※【学徒動員】太平洋戦争下における労働力不足を補うため、学生・生徒に対して強制された勤労動員。戦争の深刻化につれ、1944年には学徒勤労令が出され、中等学校以上のほぼ全員を軍需工場などに動員・配置した。

「勉強より労働！」の指示に従って激励を受けたので、小学部卒業まではこのような状況が続いていました。中等部に進学する気になれず六日町に帰り、祖父母を楽しく手伝っていました。

夏がやってきた頃、何とかして祖父にお小遣いをせびることができたので、長岡に行った。友人に会いたくなかったからだ。長岡まで汽車で2時間でした。今なら早く着けるんですが、昔は時間が大変かかりましたよ。感激のあまり久し振りの長岡を観ていました。7月31日の出来事でした。実家は金子進太郎先生の家近くにあったので、米、食べ物等が入っていたリュックサックを背負って歩いていきました。父が喜んでいました。そして長岡聾啞学校に行き、時間を忘れてしまうほど友人等とお喋りに夢中でした。5時に「食事の時間ですよ！」の鉦が鳴りましたので、別れました。戦争激化で電気を規制されていたので、カーテンを閉めて電灯に黒い布を被せているので暗かった。当然ながら手話会話、仕事等が満足にできないので、夕食を早く済ませて9時頃、眠りについた。

10時過ぎに地面が大きく揺れたように響いたことに気がつき、目を覚ました。窓を開けようとしたら、真っ赤に光っていたのがわかり、近くに細いモノが落とされて、燃えていました。慌

てて貴重品等を持ち出して家から避難した。右の方へ行けば長生橋、左の方へ行けば平瀧神社。どこへ逃げたらいいか？と考えるひまがありませんでした。近くに防空壕が5つありました。そこに逃げようと思いましたが、定員オーバーで入れませんでした。何とか5つ目の防空壕に入れました。運よく私が最後でした。運悪く入れなかった他人はどうなったか知りませんでした。中は真っ暗で、お互いの顔が見えませんでした。泣き叫ぶ子を宥める親が多くいました。防空壕の中に悪臭が漂ってくるので、不快で死にたくなる程で我慢できませんでした。外に出ようとしたら官司に叱られたので、仕方がなく待機した。市街地に焼夷弾が落とされたので、地面がずっと響いていました。しばらくしたら官司がいなくなったので、悪臭が漂っていた防空壕から出れました。空を見上げたら、東西南北から米軍戦闘機 B29 が多く飛んで来るではありませんか？その様子に見とれてしまいました。何故かいうと、まるで蛍が多く飛んでいるようで美しかった。焼夷弾が落とされる様子のはっきりと見えました。地面等に着くとすぐに火が点く構造でした。木造の建物に移ると一気に燃えてしまう。本来なら近くにいと危険ですが、頭が真っ白で「怖い」と感じず、眺めていました。

運悪く私の服に燃え移ったので川に飛び込んだ。腰までの浅くて汚い川でした。瓶が多く捨てられていて歩き難かった。あちこちに必死に避難している人々。倒木の下敷に遭った人。倒れている人。多くのゴムの焼失による悪臭が漂っていた。私は川の水面から顔が出る位に深く潜っていた。川に飛び込んだ人が多くいたが、しばらくして倒れてしまった。私は川にいても、飛び火に遭ったり、落ちてくる何かで頭を打たれていた。偶然布団が落ちているのを発見して拾った。防災頭巾の代用にして布団一枚で頭を守りながら耐えた。しばらくしたら、落ちてくるモノが少なくなったのがわかったので立ち上がってみた。周囲に多くの死体が溢れていた。川から出てみたら、市街が焼け野原になっていた。

防空壕に戻ってみたら、多くの人が倒れていた。私は火傷を負ってその痛みを堪えるだけでした。服も靴もびしょ濡れでした。どこにも人の気配がありませんでした。時間を知りたくてもどうしようもありませんでした。当時腕時計をはめていたんですが、川で濡れて止まってしまったから。10時10分のみままでした。色々な死体を観ていたの、「怖い」と感じませんでした。子を抱いている母。倒れた時に子をちょっと離れた母。腹から腸が出ていた。頭から脳が出ていた。膝を折って骨が見えた。倒れ方は十人十色でした。火傷を負った患部に触ると痛いので、歩くのに苦労しました。道が熱くて歩けません。凹んだ足跡があちこちに残っていました。他人の家の庭が熱くなかったの、迂回できた。橋も熱かったので、渡れませんでした。少しでも冷えるのを待っていました。夜が明けました。でも時間もわかりませんでした。やっと橋を渡れたんですが、向こう岸も熱かった。止むを得ず近くの畑で待っていたら、戻ってくる人が増えてきました。その中、偶然豊者に会いました。岩田さんという先輩でした。家族の安否を心配していました。お互いに情報交換して別れた。実家へ行ってみることにした。その途中、遺体を焼く人々、二人一組でトラックに遺体を運んでどこかへ行く様子を目撃した。やっと実家に到着したが、焼失していた。ミシンが変形しており、殆どが無くなった。誰もいない。しばらくしたら、父と兄が歩いてくるではありませんか？お互いに無事を喜んだことは何よりでした。まだ悪臭が漂っていたので、体調を崩してしまいました。実家より水道タンク、平瀧神社にある忠烈靖獻之碑、長岡六十九銀行、長岡市公会堂が残っているのが見えました。あとは廃墟となっていました。

これ以上住めないの、六日町に帰ることにした。長岡駅へ行く途中、多くの遺体があつという間に消えていました。ようやく長岡駅に着いたが、長蛇の列ができていた。急遽、紙で印刷された切符を配給された。私は往路の切符を所有していたが、そちらを使うことにした。やっと汽車が着いたが、超満員でした。安否を気遣う乗客が多く降りたのですが、まだ乗客がいたんです。

無理して車両の網棚の上や連結部に乗る、ドアの取っ手、車両の屋根に掴まる乗客がいました。私は連結部に乗ったんですが、そこに乗るだけでも体力消耗が早く本当に疲れましたよ。お手上げでしたので、御手洗に移った。定員オーバーのせいかな？で、遅く走っていました。やっと六日町に着いたが、足がぐたくたでした。バスがないので、家まで一時間半位歩いた。祖父が煙草を吸いながら心配してくれました。私の火傷を見せたら驚かれたようでした。患部に黴菌が入ると困るので、酒で消毒してくれました。あまりにしみるので、痛みを堪えられず泣いた。「医者に診てもらえ！」の指示で、また歩く羽目になりました。診察を受けた結果、薬が不足していたので、味噌・油・酢で調合した薬を塗ってくれました。これで痛みが減ってきたようでした。家に戻ったら食事の時間がやってきたが、美味しく食べられませんでした。どうしても空襲体験を思い出してしまうので、食欲がありませんでした。やがて薬がギブスのように固まってきたので、日常生活上不便になりました。起き上がる、座る、腰を屈める等の動作が満足にできませんでした。特に困ったのは、便所に行くことでした。10日位の通院で、全治するのに一ヶ月かかりました。

8月15日。玉音放送に涙する女性、悔しく思う男性の姿を見ましたが、私は、何が起こったか？よく分かりませんでした。後になって「終戦」を知った。「日本が負けた！」の説明が信じられませんでした。後日、ジープに乗っている米軍兵士を見かけるようになりました。女性が家に引き籠もるようになりました。米軍兵士が子供にチョコレートを与えていました。私も食べたことがあります。美味しかったのでした。

久し振りに長岡へ行ってみたら、復興があまり進んでいませんでした。生活が苦しくなってきたようです。吸殻を拾って再利用して煙草を作って売る人。芋の葉っぱの味噌漬けを売っている人。畑にこっそり入って盗む人。物物交換で生き抜く人。万引きする子。

時間が足りなくなりましたが、話題を変えたいと思います。聾者を取り巻く生活環境は昔より進化していると思います。昔不便がたくさんありました。情報入手方法が少なく限られて視野を広げることができませんでした。手話通訳者がありませんでした。聴者とのコミュニケーションがとても悪く時間がかかった。内緒で聾者には相続させず、他人が相続する等の相続問題をよく聞きました。今聾弁護士が何人かおられますね。すぐに相談できるし、相続問題が少なくなりました。これからも聾者の暮らしがよくなるために頑張っていきましょう。

佐藤 スゴイお話で驚愕しました。ダイナミックな表現で大変見事です。皆さん、拍手を送って下さい。質問したい方は挙手をお願い致します。

美多(石川) 人が死んでいく様子を目撃しても平気でしたか？その理由は何ですか？普通でしたら動揺するし、衝撃を受けるし、見たくないですが。

水野 火の渦を逃れたく川に飛び込んだことは夢中でした。川からあがったら頭がいかれたようで、死体等の残酷な状況を見ても平気でした。しばらくしたら冷静になり、怖く感じるようになってきたので、頭が正常に戻れたと思います。再び戦争に巻き込まれるときっとパニックになるでしょう。

中根(北海道) 長岡聾啞学校が焼失した様子を教えてください。

水野 直接に被害を受けたのじゃなくて、拵がってくる戦火に見舞われ、延焼を免れませんでし

た。

佐藤 よく出ていた手話（サインネーム）の意味は何ですか？説明をお願いしますか。

水野 金子進太郎先生のサインネームです。「長岡」も指します。プラス／男／＝「金子」となります。金子先生は聾者で東京聾啞学校を卒業し、長岡聾啞学校の先生でした。

伊藤（東京） 小西信八をご存知でしょうか？

水野 詳しいことはわかりません。

田中（長岡） 私は小西先生に会ったことがありません。小西は長岡出身で東京盲啞学校校長先生でした。金子徳十郎氏は聾の息子を入学させるために上京した時に小西先生より「長岡に盲啞学校を設立せよ」と勧告された末、ついに学校創立に成功された。金子先生はすぐ感情的になりやすくよく泣かれる心のやさしい人でした。

伊藤（東京） ちょっと話がそれるんですが、皆さん、山本五十六をご存知ですか？「山本」のサインネームは「両手は拳のままでぐるぐると回す」とこう表します。先輩が教えてくれました。山本の家は長岡聾学校近くのにあります。意外と関係があるんです。東京聾啞学校の近くにある伝通院というお寺で小西信八のお葬式が執り行なわれた時に山本が弔問に見えました。学校関係者は驚嘆していたのを覚えています。

佐藤 時間を予定より過ぎてしまいました。山本五十六記念館は近くにございますので、時間のある時に見に行ってください。明日のツアーは金子徳十郎銅像見学が入っていますので、参加される方はお楽しみにして下さい。改めて水野さんに拍手を送って下さい。ではお開きにさせていただきます。